

推しを愛でてたら推し
が家にいたんだが？

なっとう！

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

俺、棚橋 翔

毎日推しのメグメグを愛で、充電してから仕事に行き、グッズを買い、普通に過ごしていた、いわゆるオタクだ

ある日仕事から帰ると聞き覚えのある声が…？

なんと！推しのメグメグがそこにいたのだ！しかもご飯作ってくれてる！しかも普通にうめえ！

こん次元を超えた恋愛とかある？

目次

好きだからって理由で次元超えて来たら

しい

1

好きだからって理由で次元超えて来たらしい

「かゝわゝいゝいゝなゝあゝ」

はあ…今日も推しが可愛い…

僕は柵橋 翔、かけるって呼んでくれよな!!

ちなみに推しの名前はメグメグって言うんだ、みんなもすこれ。

まあ、そんなことはどうでもいい、ゲームとかアニメを見たりしていると自分の中の推しを見つけてグッズとかにもものすごいお金かけたりするよな？

いわゆるオタクっていうやつだ、僕はそのオタクである

今日も今日とて推しを愛で、仕事に行っている。

「ぬわあああん、疲れた…家に帰ったら推しを愛でるか…」

深いため息をつき、ドアを開ける。

「ただいま…って言っても誰もいないよなあ…推しが家にいるはずもないし…」

辛い現実を受け止めながら靴を脱ぎ、僕はそのまま入ろうとした。

「おかえり!!」

…ん？今なんか聞き慣れた声が…？

いやまさか、んなわけ無いだろ、疲れてんだな…早く飯食って寝よ…
そう思い、とりあえずご飯を食べる為、キッチンに向かった。

「おかえり！ご飯はもう出来てるよ！早く一緒に食べよ！」

…あれ？なんか目の前に推しがいるんだけど…

推しがいるわけねえよな、幻覚だよな…そう思い

「幻覚だよな…」

と僕は言う。

「何言ってるの！幻覚じゃないよ！ちゃんとここにいるよ！ほら!!」

と抱きついてきた。

ん？この感触、リアルだな…ほんとにいるのか…？幻覚じゃないのか…？

「ほんとに幻覚じゃないの？」

「幻覚なんかじゃないよ！」

…うつそだろおい、まじかよ、え、死ぬる、やばいやばい、可愛い…

「…好きです」

唐突に言った。

「…？私も好きだよ？」

…え？今この子なんて言った？好きって言ったぞ。

「まじで!? えっ…じゃあハグしていい?」

正直、冗談交じりで言った

「うん! いいよ! ギュー!!」

うわまじかよほんとにさせてくれた何この生き物可愛い

「…でもなんで僕の家なんかに来たの?」

謎だ、僕の他にもメグメグを好きな人はいるはずなのに、もつとお金をかけてる人がいるはずなのに、なんで僕なんだ?

「んー? それはね! あなたのことが好きだったからきたの!」

…いや! それだけの理由でできたの!? いや、ありがたいよ? 嬉しいよ? 死ぬるよ? ほんつと可愛いなこいつ。

「…僕と結婚してください」

これは本気だった冗談じゃないよ?

「もちろん!!」

えっ、なんこれ普通振られてなんやかんやあつてからもつかい告つて最高するパターンやないの?

ちよつと急展開すぎひん?大丈夫? ついてこれてる?

「え、じゃあじゃあ、ここにずっと住んでくれる?」

「あなたが良いなら…／＼」

や っ た ぜ

これはもう人生勝ち組ですわ、次元超えてるけど。

「それより！早くご飯食べようよ！冷めちゃうよ！」

「え？あ、うん」

「ご飯かあ…人に作ってもらうご飯は何年振りだろう…」

「ジャーン！今日のご飯はオムライスだよ！確か好きだったよね？」

満面の笑みで言う

てかなんでこの子僕の好きな食べ物知ってるのそうだよ、オムライス好きだよ、そこ、

子供っぽいとか言うな。

「いただきます…」

「召し上がれ！」

…うん、美味しい！じゃなくてマジでウメエ、何これこの子ほんとに子供かよ料理上

手すぎ…もう好き！前からだけど。

「ウメエ！やべえ、これ美味しい！美味すぎる!!」

「えへへ、喜んでもらえて良かった！」

…あまりにも美味すぎて数分で食べきってしまった…

マジで美味かった、あれは店出せるよ、うん。

「(こ)ちそうさまでした!」

そういうとメグメグの方に目をやった。

なんか洗ってるっぼいな…

なんとこの子、食器洗いまでやってくれてるのだ!なんて優しい!

「…手伝おうか…?」

「大丈夫だよ!すぐ終わるし!」

なんだよほんと可愛いな(語彙力)

数分後、水の音が止まった、どうやら洗い終わったらしい。

「ねえねえ!明日どこか遊びに行こうよ!」

子供かよ!可愛いなおい!

あ、いや子供なんだけどね、この子

「そうだな、ちようど明日休みだしどこか行くか!」

「じゃあじゃあ、ここが良い!」

「よし、じゃあ明日はそこに行くか!」

6 好きだからって理由で次元超えて来たらしい

続く
